

## 原村歴史民俗資料館（八ヶ岳美術館）

### （1）運営方針

原村出身の彫刻家清水多嘉示の生涯にわたる作品を中心に、同村出身の書家津金雀仙の作品、および村内遺跡から出土した縄文時代の考古学資料を展示することにより、村民はもとより原村を訪れる人々に社会教育の場を提供します。また地域の文化施設として、年間を通して各種の企画展を開催し、常設展と併せて来館者に様々な美術作品に親しむ機会を提供し、芸術および考古学の情報発信をおこないます。さらに建築作品としても重要な村野藤吾設計の美術館建物の維持管理に努め、その価値を広く紹介し、美術館周辺に広く自生する多くの植物を保護し、訪れる人々が豊かな自然環境の中で芸術作品に親しめるよう努力します。

### （2）令和5年度（2023）八ヶ岳美術館展覧会

（P5 令和5年度 八ヶ岳美術館展覧会 参照）

### （3）令和5年度入館者数及び売店販売実績

#### 【企画展】

令和5年度は、冬季に企画展が無い場合のデータを収集するため、敢えて冬の企画展を計画せず、春夏秋の3企画展（通常4回）を実施しました。春の「岩波其残と画友～激動の幕末・明治を生きた諏訪の画友たち～」(4月1日～6月11日)、夏の「酒井慶二郎 花は無言で語ります」(6月17日～9月3日)、秋の「縄文前期の巨大祭祀場 阿久」(9月9日～1月8日)。

冬の3か月間(1月～3月)は、清水多嘉示の彫刻・絵画、津金雀仙の書、縄文を中心とした考古資料の常設展示のみとしました。

#### 【入館者数】

講演会やイベントがない冬季(1-3月)の入館者の落ち込みが大きく、いずれも前年冬季同期比で、有料入館者は37.8%(622人減)、総入館者は37.8%(606人減)。コロナ禍前10年間平均の平年同期比でも有料入館者76.1%(119人減)、総入館者56.5%(386人減)でした。

5年度通年の有料入館者数は6,377名で前年対比86.9%(958名減)、コロナ禍前10年間の平均値6,578名と比べても96.9%(201名減)で、冬季の落ち込みが響いていると考えられます。

**【売店収入】**

売店売上は 1,479,780 円で昨対 88.3% (195,498 円減) でした。

**(4) 総収入**

総入館料は 3,140,270 円で、昨対 87.7% (439,560 円減)。売店売上、協賛金等を含めた年間総収入は 4,620,050 円で昨年対比 85.3% (794,127 円減) となりました。

**(5) 令和 5 年度実施事業**

- ・ 条例と運営方針に基づき、常設展示のほか 3 企画と 41 回の館内外のイベントを実施しました。

(P6 令和 5 年度 八ヶ岳美術館企画展・イベント参加者数 参照)

**(6) 博学・地域連携**

- 原小図工クラブの講師を務めて 6 年目になりました。今年は 29 人のクラブメンバーと年間 6 回(延べ 174 人)、楽しく工作を行いました。
- 初めて八ツ手愛育会よりお声がけいただき、八ツ手公民館へ出張のプラバンワークショップを行いました。親子総勢 23 名の方と交流を深める機会となり、その後も親子で美術館へご来館いただくなど繋がりました。
- 諏訪地域の小中教員と美術館学芸員で構成される「諏訪美術教育研究会」のワークショップ祭りが初開催され、美術館関係は周辺 5 館が参加し、各館それぞれワークショップと作品展示を行いました。  
八ヶ岳美術館は、プラバンで金魚の風鈴を作ったほか清水多嘉示の作品を展示しました。  
諏訪地域の子供たち 20 名と工作したほか、周辺の学校の先生や、美術館の学芸員との交流の機会となりました。応募多数につき抽選でしたので、工作をしたいと思う小学生がたくさんいることを感じました。
- キャリア教育  
恒例の原中 1 年生見学と 3 年生学童彫刻の森清掃。

1 学年 64 名は、班ごとに別れ館内外見学と対話型鑑賞を行い、郷土の美術館や作家について学びました。3 学年 79 名は、学芸員のレクチャーによりブロンズクリーニングを行い、先輩方の作品をきれいにしなが、卒業作成への意識を高めました。

#### ○文化財めぐりに協力

11 月 18 日（土）、原村中央公民館・文化協会により、原村出身の彫

刻家清水多嘉示の原村、富士見町の作品にふれる文化財めぐりが企

画され、バスに同行して協力。八ヶ岳美術館館長・学芸員のガイド

で柳沢公民館『伸び行く』ほか各地の作品をめぐった。

### (7) 新型コロナ対策

- ・令和 5 年 1 月に国内感染者が累計 3 千万人を超えとなり社会全体の免疫を獲得、インフルエンザ並みの「5 類」に引き下げられ、令和 2 年 1 月の国内初感染以来 3 年ぶり緩和されました。

ただ、新型コロナがなくなったわけではないので、八ヶ岳美術館はアルコール消毒・検温器は従来のまま設置を継続（来館者の使用は自由意思）、美術館スタッフはマスク着用、換気励行を続けました。

### (8) 施設整備・営繕管理

- ・小雨のあった大晦日の令和 5 年 12 月 31 日午後、館内警備器の異常発報の連絡があり、駆け付けたところ、館内 41 カ所に雨漏りが見られ、ウェスや手ぬぐいなどを敷いて養生を施しカーペット上に多少のシミが残りましたが、作品への影響はありませんでした。翌 6 年 1 月 31 日夕方にも、極小雨にもかかわらず同様の雨漏りが同様箇所でありましたが、カーペットのシミで済みました。その後風雨であっても異常は見られず、令和 6 年度の屋根等の持続化資金を活用した実施設計が行われているので、報告の上、注意深く経過観察をしています。
- ・屋内トイレで来館者のスマホ落下事故がありました。トラップがないトイレのため救出に数時間かかりました。また、かねてより身障

者から苦情が寄せられていることもあり、身障者用トイレ、多目的トイレの設置が望まれています。

- 検討課題として、現行天井の吊るしカーテン（ドレープ）が架け替えられて15年以上経過して劣化と汚れが進んでいるため、今後クリーニングか架け替えが必要になってきます。
- 作品保護のため館内燻蒸の定期的実施の必要があります。

## 令和5年度ハケ岳美術館展覧会年間予定

月	コレクション展			日数	企画展示室A	企画展示室B
	4	清水多嘉示 彫刻・絵画	津金雀山 書		考古資料	72日間
5	4/1(土)～6/11(日)					
6	酒井慶二郎の絵画 花は無言で語る展					
7			79日間	6/17(土)～9/3(日)		
8			116日間	縄文前期の巨大祭祀場 阿久展		
9				9/9(土)～1/8(月)		
10			72日間	常設展のみ		
11				1/13(土)～3/24(日)		
12						
1						
2						
3						

開館日：339日

休館日：展示替え6/12～6/16(5日)、9/4～9/8(5日)、1/9～1/12(4日)、3/25～3/31(7日)

年末年始 12/29～1/3(6日)

令和5年度 八ヶ岳美術館企画展・イベント参加者数

展覧会名	会期	関連イベント	開催日	参加者数	※特入館者数	入館者数	
企画展「岩波其残と圓友 ～幕末・明治時代を生きた諏訪の画家たち～」	4月1日～6月11日	講演「其残と原村の俳人～幕末・明治 スモールワールドへの誘い～」 山田昭彦(岩波其残研究家)	5月6日(土)	36	1,082	1,445	
		講演「岩波其残をとりまく人々～国学者との関連を中心に～」 宮坂春夫(岡谷市郷土学習館)	5月21日(日)	15			
		はらむら塾講演会「原村の五味龍洲～岩波其残の周辺画家～」 五味光亮(五味龍洲孫)	6月8日(木)	24			
		ワークショップ①和綴じのマメノートづくり	4月16日(日)・30日(日)	6			
		ワークショップ②ミニ屏風	5月28日(日)	1			
企画展「酒井慶二郎の芸術 花は無言で語る」	6月17日～9月3日	作家在館ライブアート	6月24日(土)・25日(日) 7月22日(土)・23日(日) 8月19日(土)・20日(日)	259	2,779	3,159	
		はらむら塾講演会「神紋カジの葉とカジ和紙の話」 酒井明彦(酒井慶二郎父)・小泉悦夫(カジの木の会・八ヶ岳美術館館長)	8月10日(木)	53			
		ワークショップ・二胡演奏「カジに聞いてみよう！」	8月12日(土)	33			
企画展「国史跡 阿久遺跡 土器里がえり記念展」	9月9日～1月8日	講演「長野県における阿久遺跡について」 町田勝則氏(長野県立歴史館)	9月16日(土)	50	2,208	2,578	
		講演「縄文時代の権礼と阿久遺跡」 中村耕作氏(国立歴史民俗博物館)	10月28日(土)	54			
		講演「阿久遺跡と隣接するムラ阿久尻遺跡」 小林深志氏(茅野市教育委員会)	11月19日(日)	22			
		講演「阿久遺跡と環口遺跡～八ヶ岳西麓と南麓の前期集落～」 佐野隆氏(茅ヶ岳歴史文化研究所)	11月25日(土)	34			
		収蔵庫・阿久遺跡見学ツアー 佐々木潤氏	11月3日(金・祝)	15			
		ワークショップ:ベンガラ染のひもで編むアースカラーのミサンガ	9月24日(日)	5			
		ワークショップ:黒曜石や川の砂で絵具を使って描いてみよう!	10月9日(月・祝)	5			
		ワークショップ:ベンガラ・ペイントで描く石のペーパーウェイト作り	11月23日(木・祝)	4			
その他イベント		原中1年生キャリア教育八ヶ岳美術館見学	5月26日(金)	64	1,307	6,129	7,182
		原中3年生学童彫刻の森クリーニング	5月26日(金)	79			
		ハツ手愛育会ブランワークショップ	6月25日(日)	23			
		諏訪美術教育研究会ワークショップまつり(金魚の風鈴づくり)ノ出前展示(彫刻・マップ配布)	7月30日(日)	20			
		建築講演会「諏訪地方の遺すべき建築とは」 講師:窪寺弘行氏	8月5日(土)	7			
		原村よいしょ祭り 風車作り、ぶんぶんごま作り	8月19日(土)	90			
		清水生誕記念 ブロンズクリーニング	8月20日(日)	10			
		「下諏訪宿『本陣』の風景と歴史物語」 講師: 岩波太佐衛門尚宏	10月12日(木)	20			
		阿久イベント縄文の深呼吸 ワークショップ	10月22日(日)	10			
		村民文化祭 ワークショップ(石鼓づくり)	11月11日(土)、12日(日)	71			
		原村文化協会文化財めぐり 清水多喜示の作品をめぐる	11月18日(土)	4			
		原小園エクラブ ワークショップ	6月1日(木):29名 6月8日(木):29名 6月29日(木):29名 8月24日(木):29名 9月21日(木):29名 10月19日(木):29名	174			
		クリスマスフェア ワークショップ「ブランでつくるクリスマスガーランド」	12月2日(土)、12月10日(日)、12月13日(水)、12月17日(日)	15			
		クリスマスフェア ワークショップ「キラキラスノードーム」					
		クリスマスフェア ワークショップ「松ぼっくりのミニツリーづくり」					
		金属鑄造ワークショップ	1月21日(日)	3			
		節分ワークショップ 目が動く鬼の的作り	2月3日(土)	1			
		美術館スタッフによるリレーギャラリートーク 清水多喜示の石膏像について語る	2月11日(日)	2			
		クレヨンとえのぐでえがこう! はらむらの土器	3月17日(日)	0			
		もっと知りたい! 原村と縄文土器の話	3月20日(水・祝)	2			
放課後こども教室 コラージュポーチを作ろう!	3月8日(金)	8					
原中学校ブロンズ除幕式	3月12日(火)	85					
合計(名)				1,307	6,129	7,182	
1月13日～3月24日					254	367	
					6,383	7,549	

## 令和5年度 月別年間集計表

区別 / 月別		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	毎月増減率比
開館日数		30	31	25	31	31	25	31	30	28	24	29	24	339	
有	大	一般	179	522	356	542	1,306	589	584	393	227	123	72	4,973	114%
		団劇	34	89	53	113	296	141	172	115	63	34	40	19	1,169
	村招待券													0	
	人	計	213	611	409	655	1,602	730	756	508	290	157	112	99	6,142
小	一般	16	17	4	16	78	14	1	8	5	5	5	3	167	94%
	団劇	0	42		7	3	6		1		1		1	61	55%
	村招待券													0	
人	計	16	59	4	23	81	20	1	9	5	6	0	4	228	63%
人事及び特殊料金入館						4	6	2	1					13	18%
合計		229	670	413	678	1,687	756	759	518	295	163	112	103	6,383	87%
有料入館者数 対前年比		97%	159%	135%	64%	109%	96%	93%	57%	113%	49%	68%	20%	87%	
館外活動参加者数			85	54	16	100	31	42	71					399	147%
減免入館者数		48	188	58	78	97	62	46	40	27	21	10	92	767	85%
総入館者数		277	943	525	772	1,884	849	847	629	322	184	122	195	7,549	89%
総入館者数 対前年比		99%	166%	122%	64%	114%	93%	85%	62%	98%	50%	66%	35%	89%	
一般入館料計		110,930	319,810	206,940	333,800	822,320	369,950	377,210	255,530	146,000	79,820	56,120	50,490	3,127,920	88%
人事及び特殊料金入館料						40	260	20	210					530	
総入館料計		110,930	319,810	206,940	333,800	822,360	370,210	377,230	255,740	146,000	79,820	56,120	50,490	3,128,450	88%
総入館料計 対前年比		95%	155%	137%	69%	109%	95%	94%	57%	114%	49%	67%	21%	88%	
売店売上、wst代		119,902	229,405	155,620	124,739	231,476	141,810	150,380	106,352	98,208	53,470	24,660	20,404	1,456,446	89%
売店売上 対前年比		197%	305%	205%	66%	113%	102%	69%	51%	116%	57%	38%	10%	89%	
その他	協賛金			80,000					280,000					360,000	
	振込その他入金	5,748				1,960	1,960	8,668				8,668	4,610	29,654	
	応援券						2,500	3,000						5,500	
総収入		236,580	549,215	442,560	458,539	1,053,836	516,480	539,278	642,052	244,208	133,290	88,468	75,504	4,980,050	86%
総収入 対前年比		126%	195%	144%	68%	110%	76%	70%	98%	71%	49%	50%	16%		

## 冬 季 比 較

A 令和4年度 企画展(日蓮れんげ展)＋常設展

B 令和5年度 常設展のみ

有料入館者数(人)

	1月	2月	3月	合計
A 令和4年度	331	164	505	1,000
B 令和5年度	163	112	103	378
対前年比	49.2%	68.3%	20.4%	37.8%
対前年比	-168	-52	-402	-622

有料入館料(円)

	1月	2月	3月	合計
A 令和4年度	163,460	81,820	244,660	489,940
B 令和5年度	74,820	55,120	50,490	180,430
対前年比	48.8%	67.4%	20.6%	37.8%
差	-83,640	-26,700	-194,170	-304,510

売店売上(円)

	1月	2月	3月	合計
A 令和4年度	93,930	64,782	213,446	372,158
B 令和5年度	53,470	24,680	20,404	98,554
対前年比	56.9%	38.1%	9.6%	26.5%
差	-40,460	-40,102	-193,042	-273,604

収入(入館料＋売店売上)(円)

収入計(円)	1月	2月	3月	合計
A 令和4年度	257,390	146,602	458,106	862,098
B 令和5年度	133,290	79,800	70,894	283,984
対前年比	51.8%	54.4%	15.5%	32.9%
差	-124,100	-66,802	-387,212	-578,114

## 【支出】

## 人件費

人件費(円)	1月	2月	3月	合計	備考
A 令和4年度	728,176	744,209	757,433	2,229,818	
B 令和5年度	724,954	815,800	834,461	2,375,215	
前年対比	99.6%	109.6%	110.2%	106.5%	
差	-3,222	71,591	77,028	145,397	

## 通信運搬費

電話(円)	1月	2月	3月	合計	備考
A 令和4年度	5,329	5,990	12,099	23,418	
B 令和5年度	5,705	3,903	552	10,160	
前年対比	107.1%	65.2%	4.6%	43.4%	
差	376	-2,087	-11,547	-13,258	

インターネット(円)	1月	2月	3月	合計	備考
A 令和4年度	4,400	4,400	4,400	13,200	LCV
B 令和5年度	6,691	3,113	9,339	19,143	ビッグローブ
前年対比	152.1%	70.7%	213.3%	145.0%	
差	2,291	-1,287	4,939	5,943	

## 燃料費

灯油量(ℓ)	1月	2月	3月	合計	通年
A 令和4年度	4,500	4,700	4,400	13,600	24,400
B 令和5年度	3,450	5,300	4,200	12,950	23,950
前年対比	76.7%	112.8%	95.5%	95.2%	98.2%
差	-1,050	600	-200	-650	-450

灯油代(円)	1月	2月	3月	合計	通年	単価
A 令和4年度	418,500	432,400	409,200	1,260,100	2,265,200	92.8
B 令和5年度	330,165	519,400	415,800	1,265,365	2,316,550	96.7
前年対比	78.9%	120.1%	101.6%	100.4%	102.3%	104.2%
差	-88,335	87,000	6,600	5,265	51,350	3.9

ガソリン(円)	1月	2月	3月	合計	備考
A 令和4年度	6,278	19,693	7,226	33,197	
B 令和5年度	5,324	9,366	21,719	36,409	
前年対比	84.8%	47.6%	300.6%	109.7%	企画展搬入
差	-954	-10,327	14,493	3,212	

## 光熱水費

電気量(KW)	1月	2月	3月	合計	通年
A 令和4年度	5,737	4,919	4,826	15,482	60,100
B 令和5年度	4,997	4,150	4,038	13,185	47,152
前年対比	87.1%	84.4%	83.7%	85.2%	78.5%
差	-740	-769	-788	-2297	-12,948

電気代(円)	1月	2月	3月	合計	通年	単価
A 令和4年度	241,002	178,777	169,219	588,998	2,182,990	36.3
B 令和5年度	139,716	124,645	124,662	389,023	1,490,463	31.6
前年対比	58.1%	69.7%	73.7%	66.1%	58.3%	87.1%
差	-101,286	-54,132	-44,557	-199,975	-692,527	-4.7

水道料(円)	1月	2月	3月	合計	通年
A 令和4年度	13,970	0	13,970	27,940	83820
B 令和5年度	13,970	0	18,774	32,744	88624
差	0	0	4,804	4,804	4804

## 消耗品費

消耗品(円)	1月	2月	3月	合計	備考
A 令和4年度	55,013	70,795	290,851	416,659	パンフレット
B 令和5年度	37,117	34,438	244,886	316,441	ショウブライン
前年対比	67.5%	48.6%	84.2%	75.9%	
差	-17,896	-36,357	-44,965	-100,218	

支出(人件費+通信運搬費+燃料費+光熱水費+消耗品費)

支出計(円)	1月	2月	3月	合計
A 令和4年度	1,472,668	1,456,264	1,664,398	4,593,330
B 令和5年度	1,263,642	1,510,665	1,545,531	4,319,838

### (まとめ)

- 冬季に企画展がなく常設展のみの B タイプは、収入が約 578,000 円減少し、支出も約 273,000 円減少しました。  
逆に言えば、企画展のある A タイプは、収入が約 578,000 円多く、支出も約 273,000 円多くかかりました。
- 結論は、企画展を実施すると約 305,000 円の赤字となりました。
- 絵画などの作品保護を考慮すると、冬季の燃料費（床暖房のボイラー燃焼）は常設展のみの B タイプ並みが必要と考えます。
- 美術館としては冬季閉鎖ではなく、常設展による冬季開館が妥当と考えます。講演会などのイベントを開催して有料入館者増を目指し、収支バランスに寄与できればと考えております。

## 令和 6 年度企画展概要

### 建築展「没後 40 年 八ヶ岳美術館と村野藤吾」

4 月 1 日（月）～6 月 2 日（63 日間）

八ヶ岳美術館では、建築を設計した建築家 村野藤吾（1815-1894）の没後 40 年の節目を迎えることから、特別企画展を開催します。

村野藤吾は佐賀県東松浦郡満島村（現・唐津市）に生まれ、早稲田大学を卒業後、渡辺節建築事務所をへて 1929 年に村野建築事務所を開設し、数々の名建築を手がけた日本を代表する建築家です。戦後の 1970 年には最初の美術館作品である兵庫県立近代美術館（現・兵庫県立美術館 原田の森ギャラリー）、1975 年の小諸市立小山敬三美術館に続き、1979 年に八ヶ岳美術館が竣工されました。のちの 1983 年には谷村美術館を設計しており、生涯でおもに 4 つの美術館を設計しています。

このたびは村野藤吾と八ヶ岳美術館にかかわるデザイン画や設計図、写真など貴重な関係資料のほか、村野藤吾の出身校である早稲田大学の学生がつくる八ヶ岳美術館の模型などを展示します。会期中には第一線で活躍する建築家や研究者による「連続建築講演会」を開催いたします。

※協力・コーディネート：地域おこし協力隊 内田将大氏

### 緊急企画展「世紀を超えた鳥類標本 林正敏氏蔵・野鳥関係資料」

6 月 8 日～7 月 7 日（30 日間）

林正敏氏旧蔵の鳥類学黎明期の貴重な鳥類学資料による 1 ヶ月間の緊急展示を開催します。明治末期から大正期にかけて鳥類学の黎明期に信濃一帯で研究用としての鳥類捕獲に従事した金井汲治（1858-1939）・金井 清（1884-1966）父子、高山忠四朗（1901-1993）・高山鼎二父子の 4 人が収集した 2000 点以上に及ぶ学術標本がこのほど、国立科学博物館への一括寄贈が決定しました。これを機に、当館にて展示公開を行います。鳥の研究に資するために捕獲された野鳥には、ライチョウ 9 点はじめオオワシ、メグロ、アカヒゲ、カラスバトなど現在では国天然記念物や絶滅危ぐ種となった貴重な鳥も数多く含まれています。そのほか各種の鳥卵標本とその製作具、げっ歯類の皮革標本、石版画による大正期の狩猟鳥類掛図など、他貴重な資料を公開いたします。

### 画文集出版記念・水彩画展「片田好美 森と生きる」

7 月 13 日～9 月 23 日（73 日間）

水彩画家の片田好美は、蓼科在住の八ヶ岳山麓に生息する鳥と自然の木や植物を描く水彩画家です。

版画作家をへて 1997 年より水彩画家として活動をはじめ、蓼科に移り住んだ 2000 年以降は、野鳥を中心とした動植物を描いています。野鳥の会諏訪支部に所属し、その会報誌を飾るなど、日々の野鳥観察のなかで培ったそれぞれの鳥たちへの深い理解をもとに描か

れた絵画には、八ヶ岳山麓の自然の魅力が確かな筆致で表現されています。日々の観察をもとに絵に描かれた野鳥たちの色とりどりの羽やすどい嘴、優雅なしぐさ、とまる枝に咲く花々を捉える筆致からは四季折々の自然への深い愛情が伝わり、八ヶ岳を訪れる人々を中心に人気を集めています。本展では、八ヶ岳の自然と鳥たちについてまとめた3部作となる画文集「森と生きる」Ⅰ～Ⅲを2023年までに刊行したことを記念し、画文集に掲載された作品を中心に集めた展覧会を開催します。

### 全国公募「第10回あなたが選ぶ信州の裂織展」

9月28日～12月8日（72日間）

原村では古くから機織りが盛んに行われてきました。厳しい生活を生き抜くため、ぼろ布ひとつを大切に生み出された裂織は「ぼろ機織り」の名称で親しまれ、今なおその技が大切に継承されています。地域を代表する文化のひとつであるこの裂織は、近年では全国的に隆盛を見せ、高い芸術性を持ったアート作品としても注目されるようになってきました。

2006年に開始した裂織公募展も、隔年開催を続けて今年で10回目を迎えます。入館者の投票によって決定する大賞と、芸術性・技術・伝統性など総合的多角的な視点で審査する審査員特別賞を設け、現代における裂織作品の価値と意義を評価しようとしています。今年も全国から集まった様々な裂織作品をご覧ください。

別室では、原村を中心とした諏訪地域で活躍する裂織の制作者や裂織を使った作品をご紹介します。

### 八ヶ岳山麓に広がる JOMON 世界

12月14日～3月23日（94日間）

県宝18点の一堂展示とともに諸分野から縄文人の世界観に迫る講演会とイベントで構成

## 令和6年度 ハケ岳美術館展覧会 年間予定

月	コレクション展	企画展示A	企画展示B	
4			没後40年「ハケ岳美術館・村野藤吾の世界」建築展 4/1(月)～6/2(日)	
5				林正敬蔵・野鳥関係資料展 6/8(土)～7/7(日)
6				
7		30日間		
8		73日間	画文集出版記念展「片田好美 森と生きる」 7/13(土)～9/23(月)	
9	清水多嘉示 彫刻・絵画	津金雀仙 書	考古資料	
10		71日間	ハケ岳美術館全国公募展 第10回 あなたが選ぶ信州の製織展 9/28(土)～12/8(日)	
11				
12				
1		94日間	ハケ岳山麓に広がるJOMON世界 12/14(土)～令和7(2025)年3/23(日)	
2				
3				

開館日：332日

休館日：33日 展示替え 6/3(月)～6/7(金)、7/8(月)～7/12(金)、9/24(火)～9/27(金)、12/9(月)～12/13(金)

3/24(月)～3/31(月)

27日

年末年始 12/29(日)～1/3(金)

6日

## 《八ヶ岳民俗資料館運営協議会》 R5 年度 意見等に関する回答書

### 1. 子どもたちの入館者数の増加を図るため、今後具体的に行う実施事業

- ・ 条例において美術館は「教育的施設」ということで、広ければ6市町村、狭ければ村内の小中学生が授業で年2回程度美術館を訪問して授業を受けるようなことになれば、教育施設として活用という意味でも非常に良いと思うが、その辺りはどうか。[委員意見/R5 第2回 (10月)]
- ・ それにしても無料入館者数（小中学生を含む）が少ないかなとどうしても感じるので、もっと積極的に村内の小中学校の方にアピールした方が良いと思う。[委員意見/R5 第2回 (10月)]

#### 《会議時の回答》

##### 前年度までの活動紹介等

#### 《回答》

- ・ 「学校授業との連携」について、今年度追加で新たに実施する予定はないが、現在の実施事業として原中学校1～3学年が総合学習で年1回訪問している。今後小学校や他市町村から要望があれば前向きに対応する。またコロナ禍から途絶えている原小学校合唱団・リコーダーコンサート、原中学校吹奏楽部コンサートについても、令和7年度の復活を目指し、学校側と交渉を行う。
  - ・ 「小中学校へのアピール方法」について、昨年度から「オクレンジャー」を利用し子どもが興味を持ちそうなイベント、企画展等について発信している。非常に有効であり、今後も継続していく。
- ① 県主導の「信州とあそび！ミュージアムネットワークスタンプラリー」（2016年～2018年）は夏休み期間中、全国の小中学生が無料となり、八ヶ岳美術館は触って遊べる「高橋綾の遊ぶデザイン展」を企画し7月～9月中心に好評を得た。
  - ② 子ども集客の要素は「触れる」「遊べる」「魅力ある企画（子供連れの保護者も楽しめる企画）」にあり、館側としても非常にやりがいのある事業。反面、安全性の確保や経費の増大（監視員を置くなど）といった物理的な問題も生じるため、作家との調整、連携が不可欠。
- ・ 以上の実状を踏まえ、子どもをテーマに活動している作家（蟹江杏さん、こよみ丸さん、原小の小さなアーティストら）を視野に令和7年度企画展候補を絞っている。館としても子ども向けの企画展、イベント等について前向きに取り組んでいきたいと考えている。

### 2. 「ああ、また（村野藤吾/片田好美/裂織り/縄文）か。」という客層に対し、足を運んでもらうためのようアピールする（した）のか。（※各企画展について）

- ・ 過去にも館として取り上げたことがある中で、今回ここで出してきたという意味は何か、今までと何が「違う」のか。その「違う」点をどう打ち出す（打ち出した）のか。[委員意見/R5 第2回 (10月)]
- ・ 美術館側の意図や事情と、一般の人が聞いたときに、「お、今回じゃあちよっと行ってみるか」と思ってくれるかという、違う。[委員意見/R5 第2回 (10月)]

## ◆村野藤吾

・村に住んでいる人たちは、「ああ、また村野藤吾ね。今までと何が違うの？」というところ。今までとの違いを明確に出していかないと、客足は伸びない。[委員意見/R5 第 2 回 (10 月)]

・何回かやってくる中で、ああ、また同じか。というのはやはり思われるところ。確かに村野藤吾氏が館の設計者であるというところはわかるが、もう少し視点を変えた打出し方があると思う。[委員意見

R5 第 2 回 (10 月)]

・確かに村野藤吾を取り上げるというのは、インパクトがあるようでないようで、本当に建築に興味がある人は確かに反応するだろうけども、残念ながら多くの人はいそれ以上でも以下でもないのが現実。

いろいろな仕掛けを考えなければ駄目かなと。[委員意見/R5 第 2 回 (10 月)]

## 《会議時の回答》

大変になる、貴重なご意見。館内で十分討議をさせていただきたい。

## 《回答》

・単に「没後 40 年」ではなく、「新作模型と VR」という“現代 (=没後 40 年の今) だからこそできた手法・展示”を目玉に、「今までと違う村野」を見てもらえたのではないかと思う。

- ① 村野藤吾没後 40 年の節目に実施し、生涯 5 つ設計した美術館関係の設計図・模型・写真資料の他八ヶ岳美術館の VR 映像の放映・模型展示(新作)。
- ② 講演会は藤森照信氏、松隈洋氏、お孫さんによる「家族から見た村野藤吾」。YouTube 効果もあり、立見席ができるほどの盛況。
- ③ 館長による建築ツアー1 回、ワークショップの「こどもクラフト教室」を実施。
- ④ 中日新聞(全国版文化欄)で「美術館に見る先駆性～建築家の村野藤吾 没後 40 年」の見出しで掲載された。

・結果、有料入館者は 1,716 人 (うち小人 38 人) で昨年同期比 191% (817 人増)、総入館者は 2,040 人で昨対 180% (905 人増)。お馴染みのテーマながら、切り口や視点を変えた打ち出し方という点についても、ある程度の反応をいただけたのではないかと思う。

・説明の中に AI、VR やそういったものを使った映像または、ということがあったが、例えば 3D プリンター等を使った立体化、といった方向も考えられるか。[委員意見/R5 第 2 回 (10 月)]

## 《会議時の回答》

スキャンしたデータが 3D プリンターで打ち出しできれば、おみやげになるような小さな模型を作ったりもできるというアイデアはいただいている。もし現実化できれば、ただ問題としてデザイン等の権利関係がどうなっていくのかという、その辺りの調整が必要になってくると思う。

## 《回答》

- ・展示の新作模型は3Dプリンターで制作していただいたもの（今回は友達価格で安価に）。
- ・商品化について、今回の企画展では未実施。

・（村野藤吾展時に）ドローンで空撮した映像を流すといったことは可能か。[委員意見/R5 第2回（10月）]

## 《会議時の回答》

やりながら考えていく。企画展が始まるまでには、ある程度見通しを立てて。

※阿久遺跡のドローン空撮映像（大昔調査会）の上映を予定している（R5 実施済み/事務局）

## 《回答》

- ・ドローン空撮をしたうえで、企画展会場でVR映像を流した。

・これまでの美術館のいろんなスナップ写真を集めたいという話について、これは村内だけでなく例えばHPからいろんな発信の仕方でも写真を集めることも可能ではないかと思う。全国から観光でみえた方に発信すれば、たとえ写真が来なくてもそれ自体が一つの美術館の宣伝になると思う。[委員意見/R5

R5

第2回（10月）]

## 《会議時の回答》

やりながら考えていく。企画展が始まるまでには、ある程度見通しを立てて。

## 《回答》

- ・HPを活用した一般への募集、呼びかけ等は実施しなかった。
- ・早稲田大学建築学科同窓会を通じて募集したが写真は集まらず。
- ・自館で古い八ヶ岳美術館の写真資料を発掘精査したことで、未発表の新たな写真展示ができた。
- ・また建築模型を製作した建築家・石田雄琉氏の撮り歩いた村野建築の素晴らしい写真を展示した。

## ◆片田好美

・片田好美さんも、言ってみれば“地元の作家さん”で、何か趣向の変ったところを出してほしい。今ま

での部分から、例えば前回の日達れんげさんからの、被り的な部分があるのではないかと思います、その辺りも視点を変えた打出しができるものをお願いしたい。[委員意見/R5 第2回（10月）]

・「片田好美、最後の展覧会」と打ち出すのならまだわかるが、「たぶん最後です」など曖昧な言い方は、あまりにインパクトがなさすぎる。[委員意見/R5 第2回（10月）]

・今回の企画展は、今までの片田さんの水彩画展とどう違うのか。その差異が知りたい。

## 《会議時の回答》

仰るとおりで、キャッチコピーが、コンセプトがまずないという点。大変になる、貴重なご意見。館内で十分討議をさせていただきたい。

## 《回答》

- ・ 前回企画展（鳥のはく製展示）からの流れを生かし、集客へ繋げたい。テーマが同作家（画文集3部作「森と生きる」（Ⅰ～Ⅲ）完了記念展、掲載された作品約70点を展示）で繰り返しになる点は否めないが、村野展同様「ただの〇回目」という印象を良い意味で裏切る内容を企画していきたい。
- ・ 野鳥観察会、本人のギャラリートーク、子どもワークショップ「鳥のブローチ作り」、八ヶ岳美術館ナイトミュージアムコンサート「森と生きる」を企画中。

## ◆裂織り

- ・ 作家数や高齢化、今後の継続等、何とも難しい点もわかるが、やはり「ああ、いつもやってるあれね。」

と思われてしまうところでは、村民は足を運ばない。企画展の説明はわかったが、ただ一般の人が聞いたときに、「お、今回じゃあちょっと行ってみるか」と思ってくれるかという、違う。[委員意見/R5 第2回（10月）]

- ・ 存在意義とかこの展覧会の価値というものはわかるけれど、それでお客さんが増えるかというところは、弱い。[委員意見/R5 第2回（10月）]
- ・ 普段、「今までやっていたものと違う」もの、何かわくわくする仕掛けのようなものがあったら、と思うが、その辺りはどうか。[委員意見/R5 第2回（10月）]

## 《会議時の回答》

裂織協会理事の方々の意見も聞いたりしながら、真剣に考えていく。館としては、何か違う形で、発展形で続けていけるようなことができればありがたいのと、信大繊維学部の教授との繋がりが切れないようにしたいという部分もある。そんなことを踏まえて、これから考えていきたいと思っている。

## 《回答》

- ・ 原村の地が裂織のメッカと呼ばれるようにと隔年開催で足掛け20年の裂織展を実施。
- ・ 途中から全国公募展として、全国裂織協会の後援をいただきながら、信大繊維学部高寺教授を迎えた審査員特別賞も設けて裂織文化の普及を図ってきた。新人の登場や身障者の素晴らしい作品の展示など裂織文化の一翼は担えたと自負している。
- ・ 次第に作家の高齢化が進み、今回の第10回裂織展を以て全国公募展を終了。
- ・ 「今までやっていたものと違うもの」として、主会場は従来通りの候補作品の展示で変わらないが、第2室で秋山鶴さん(ハッ手)追悼展と裂織に取り組む地域こし協力隊員の活動紹介を行う予定。

## ◆縄文

- ・八ヶ岳山麓の縄文世界についても、同様に考えるべきと思う。今までやってきた内容と、今回やる内容と、たぶん同じになるのではないか。[委員意見/R5 第 2 回 (10 月)]
- ・原村の企画展と茅野市や諏訪市の美術館とコラボするような企画を行ってはどうか。考古や美術、様々なジャンルで、ぜひ積極的にお願いしたい。[委員意見/R5 第 1 回 (7 月)]

## 《会議時の回答》

まだ構想段階のため言わなかったが、今回縄文前期、阿久の企画展を行った。次の企画展的には、今まで常設で展示している中期をもう 1 回、と考えている。中期に重きを置いて、近隣からの借用も含めて展示を行う他、イベントや講演会もバラエティに富んだものやってみみたい。例えばつい最近では、ご相談もしておらず決まったことではないが、尖石縄文文化賞を受賞された佐々木さんの、植物考古学、という分野がある。例えば縄文の言語学をやる方、それから美術的に美の世界から縄文の文様を捉え直す、というような、いろんな方の講演会をセットして、そこで縄文人の、縄文世界の精神性のようなものを何か彷彿とさせていければいいかなど。幸いにして縄文中期には中心地になっているため、それを中心軸にして、大石等大変いいものが出土している遺跡、また県宝を一堂にししながら、それを中軸に置いてやれたら、というイメージではある。

## 《回答》

- ・これまでも他館と作品や土器の貸し借りなどの交流を行っており、今後とも継続しながら、企画展とリンクするような取り組みを様々なジャンルで模索したいと考えている。
- ・講演会のテーマ設定等よく工夫し、「今までと違う」縄文展をつくっていきたい。

## ◆その他

- ・例えばナイトミュージアム等、発想を思い切って変えてみる必要があるのではないか。こういうものだと決め打ちしないで、少し形を変えてみる、見方を変えてみる手法を考えていただけたら。[委員意見

R5 第 2 回 (10 月)]

- ・時には座ってゆっくり見られるような、そういう利用者主体の展示方法や、巡回、鑑賞するためのいろいろな配慮が、可能ならば欲しい。[委員意見/R5 第 2 回 (10 月)]

## 《会議時の回答》

ナイトミュージアムについては何回か実施しており、今後も考えていけたらと思っている。

(※これに対し「1 回くらいやっていただけたら」[委員意見/R5 第 2 回 (10 月)])

ギャラリー森の紹介、既存の椅子の紹介

## 《回答》

- ・今春、東京都、東京都美術館ボランティア、黒川武蔵美術大学名誉教授らの協力を得て東京上野公

園にある「みどりのリズム」出張ブロンズクリーニングを実施。館のアピールとしても有効であり、

今後もアウトリーチ活動を並行して実施していきたいと考えている。

- ・驚きの企画展として、本年度の春と夏の企画展予定をこじ開け、1ヶ月だけの緊急展示を実施（国立科学博物館一括寄贈 直前緊急展示「世紀を超えた鳥類標本の全容」（6月8日～7月7日））。
- ・北海道、九州（佐賀）、京都などからわざわざ足を運んでこられた長時間滞在型の来館者も。
- ・信濃毎日新聞（見開き扱い）、毎日新聞、長野日報（1面トップ）、市民新聞（見開き全面2ページ）、NHK、SBCテレビなど多くのメディアに大きく扱っていただき、期間中の有料入館者1,789人（うち小人61人）、総入館者2,036人と大盛況だった。

- ・小学校の子どもたちの作品を美術館に飾る、“美術館で美術展”のような、学校ではなく美術館に子ども

の作品が飾られる、という逆の形はどうか。一週間や期間限定でもいいから子ども美術館になりました、というような、外へ出ていく以外にも美術館に抱き込んでくる、呼び寄せていくような、そんな企画を作れば面白いかなと。[委員意見/R5 第2回（10月）]

#### 《会議時の回答》

（事務局）以前の会議時に委員の方から「（お金を払って見てもらうということから）そこに所謂見てもらう価値のある、と言うのも変だが、お金を払って見てもらえる方に対する美術館の展示であるべき」というご意見もいただいている。こうしたことから貸館については、また今後ご意見をいただきながら、どういう方向性であれば実施できるのか、そういった点も含めてまたご検討をお願いしたい。

（事務局）美術へ企画展を当てにいられたときにそういった展示があった場合どう思われるのか、といったところも含めて、もちろん住民の方に来てもらう機会としてはとてもいい考えで、その課題をどうするかという部分を検討していただければと思う。

#### 《回答》

- ・目的外使用の是非などご意見を伺えれば幸いです。

## 令和 8 年度以降美術館運営についての確認事項

### 1. 運営方法について

#### ① 直営に戻す

- ・現在の体制で運営を行うと仮定すると、村負担額の増加が見込まれる。

#### ② 指定管理

- ・公益目的財産額相当の残額は約 14,719 千円。
- ・この額を一括補填しない限り、美術館を文化園と切り離せない。
- ・切り離した場合、公社以外で指定管理を受ける団体があるのか？

(所見)

これらの状況を見ると、公社に引き続き指定管理を委託するのがよいのではないか。

### 2. 冬期閉鎖について

- ・試算ができていないため、判断ができないが、人員の確保を含めて対応ができるか。

### 3. 美術館の目的の確認

・原村歴史民俗資料館条例の第 2 条には「郷土に関係の深い考古資料及び郷土出身芸術家の美術作品を収集保管し、**教育的配慮**の下に公衆の観覧に供するための施設」と記載があります。

・この教育施設としての活動をどのように行っていくかを検討することで、美術館の位置付けをしっかりとすることができるのではないか。

(例) 小中学生の美術展・小中学校の授業での活用強化・学校ミュージアム等

### 4. 美術館の利用の強化

- ・村民に親しまれる（利用してもらえる）美術館を行う必要があるのではないか。

(例) 高齢者作品展・村民の入館料無料化

### 5. 企画展の在り方

・令和 5 年度に試験的に冬期企画展を実施しなかった。その結果を踏まえ、企画展の数や時期について検討が必要。

### 6. 収支の改善

- ・貸館利用を含めた収入源の確保。支出の削減
- ・休館日の変更等（月曜定休にするか）